

## 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第17回部会）議事概要

- 日時：平成30年9月13日（木）午後7時～8時15分
- 場所：東淀川区役所出張所 1階 会議室

### 1 開会

### 2 情報提供

- (1) 新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補となる地域として公表
- (2) 「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化に促進に関する法律の一部を改正する法律案」を閣議決定

### 3 議題

ワークショップ開催報告等及び意見交換

- 意見交換要旨

#### 【情報提供について】

##### (1) 新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補となる地域として公表

- ・8月30日に市長の会見より、国による新大阪駅周辺地域が都市再生緊急整備地域の候補として公表された。
- ・スーパー・メガリージョンの西の拠点を担う新たなまちづくりに向けた準備をしていく。
- ・今後、国、経済界、民間事業者などとともに検討協議会を立ち上げて、指定を目指した準備を進めていくとなっている。
- ・大阪市としては阪急の十三駅から阪急の淡路駅までの周辺地域を検討対象地域として考えていると発表された。

以上を東淀川区役所から説明。

表西部会長から上記4点の補足説明と、検討協議会に対し、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会で検討したことの意見発信をしていく必要があること。またこの部会としても状況を注視しながら議論を深めたいと述べられた。

##### (2) 「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化に促進に関する法律の一部を改正する法律案」を閣議決定

- ・バリアフリー法について、改正法律案が平成30年2月に閣議決定され、平成30年5月に交付されている。
  - (1) 理念規定/国及び国民の責務
    - ・理念規定を設け、バリアフリー取り組みの実施に当たり、共存社会の実現、社会障壁の除去に留意すべき旨を明確化
    - ・国及び国民の責務に、高齢者、障がい者等に対する支援（鉄道駅利用者による声かけ等）を明記し、「心のバリアフリー」の取り組みを推進

(2) 公共交通事業者等によるハード・ソフト一体的な取り組みの推進

- ・エレベーター、ホームドアの整備等のハード対策に加え、駅員による旅客の介助や職員研修等のソフト対策のメニューを国土交通大臣が新たに掲示
- ・公共交通事業者等に対し、自らが取り組むハード対策及びソフト対策に関する計画の作成取り組み状況の報告及び公表を義務付け

(3) バリアフリーのまちづくりに向けた地域における取組強化

- ・市町村が、駅、道路、公共施設等の一体的・計画的なバリアフリー化を促進するため、個別事業の具体化を待たずにあらかじめバリアフリーの方針を定める「マスタープラン制度」を創設
- ・近接建築物との連携による既存地下鉄等のバリアフリー化を促進するため、協定制度及び容積率特例制度を創設

(4) 更なる利用し易さ確保に向けた様々な施策の充実

- ・従来の路線バス、離島航路等に加え、新たに貸し切りバス・遊覧船等の導入時におけるバリアフリー基準適合を義務化
- ・従来の公共交通機関に加え、新たに道路、建築物等のバリアフリー情報の提供を努力義務化
- ・バリアフリー取り組みについて、障がい者等の参画の下、評価等を行う会議を設置

以上が大きな変更点であることを東淀川区役所から説明。

## 【議論のテーマ】

### ワークショップ開催報告等及び意見交換

- <下新庄地域>
  - ・第3回ワークショップを9月3日に開催した。テーマを「子どもの居場所作り」に限定して行った。詳細は次回部会にて説明する。
  - ・台風の時に、福祉会館を私設避難所として開設した。避難して来た人からご飯について、不満を漏らされたという話を聞いて悲しく思っている。
  
- <菅原地区>
  - ・前回、欠席していたため5月22日の町会長会議にて西部地域バリアフリー協議会の概略を事務局より5分程度説明したことを再度説明。8月31日に、地活協の主要なメンバーが出席する場で再度、趣旨説明をし、その後意見交換をした。
  
- <東淡路・柴島地域>
  - ・前回の協議会以降大きな動きは無し。
  - ・メンバーや開催日について検討しているので11月の部会では何か報告できるようにしたい。
  
- <淡路地域>
  - ・前回の協議会以降大きな動きは無し。
  - ・地活の補助金割合の資料を提供、それをういつつ、今回発表されたスーパー・メガリジェーションの話を踏まえながら今後の議論を絞れないかや地活の補助金割合を見比べ地域の特色を把握しながら進めるといった方法もあるのではないかと提案した。
  
- <西淡路地域>
  - ・前回の協議会以降大きな動きは無し。
  - ・補助金割合の資料を見て、防災など予算面では力が入っているが、何かかゆいところに手が届かないように感じた。
  - ・避難所が台風等の災害が起こっている当日は開いているのに、翌日自宅の停電等で来られた方がいるのに当日しか避難所が開いていないというのは課題だと思った。
  
- <啓発地域>
  - ・前回の協議会以降大きな動きは無し。
  - ・今回の台風で避難所は開設していない。
  
- <新庄地域>
  - ・地域版の保健福祉計画作成に向け、8月27日に2回目のワークショップを実施した。

## ◎久教授のアドバイス要旨

- ◇ ある地域でまちづくり協議会を作ろうとしている。ある会長がワークショップをしようとして提案したが90%に反対された。理由は主に色々な人に聞けば聞くほど収集がつかなくなっているのと、抽象的なテーマでは話ができないと思っているこの2点。この2点が乗り越えられないとワークショップはできない。
- ◇ なぜワークショップが必要なのか、一人一人の意見を聞くためである。一部の役員さんがこうじゃないか、ああじゃないかと推測で、皆さんの意見と称して、考えているんなことをしていないか。本当は一人一人の意見を聞かないといけないはずなのだが、なかなかできていない。
- ◇ 本当に街の意見を聞いてくださる町会の代表さんがおられて、町会としての意見を言えないという話になった。賛成、反対、いろんな意見を聞いているので、あなたの街の意見は？と言われても、ないですとしか言いようがありませんとこれは本当の意見だと思う。
- ◇ 一方別の地域では3500人の方が住んでいます。その意見は町会長さんお一人ではなかなか把握できていないので、ワークショップをするのです。と私が最初に挨拶をしたら、おまえ何を言っているのだと。俺は3500人の意見を全部知っていると町会長が憤慨された。
- ◇ 防災の話では、災害に見舞われたときに今後どうするかという話は、記憶に新しいうちにやっておかないといけないし、それぞれの地域の知恵をこういった時に持ち寄るのも重要だと思う。どういうことで困ったの？どうしたらよかったの？どうやったらうまくいったの？とった情報交換も記憶が薄れないうちにやって、ビジョンとかアクションプランにつなげていくのも重要な点だと思う。
- ◇ 銭湯など消えつつあるものでも、災害の時に必要になるので、普段から私たちが使って残しておかないといけなかったものは何だろうかというのも重要な気づきだと思う。
- ◇ 復旧の段階までの話で、要介護者に対して見落とししているところがいくつもあるのではないかなと思う。被災した地域で、防水シートが配られることになったので、お年寄りの方が市役所に連絡したら、市役所まで取りに来てくださいと言われてたが、取りに行く手段がない。車の運転はできないし、もらってきたとしても、屋根に登って張れない。そういうケアは誰がやってくれるのだろうかというところが抜け落ちているのではないかな。自宅が被災したときに、高齢者、一人暮らしだったら、みんながケアしていかないと、復旧できないところが、ほかの事例でも見えてきている。
- ◇ 避難所は食べ物をくれる場所ではないということを共有する必要があると思う。基本的に、自分で3日間の食糧は用意しておかないといけないものである。避難所へ行けば何でもやってくれるのだろうと、お客様意識を持っているから文句につながってしまう。
- ◇ ある避難所では、弁当は机の上に積んであって、それを皆さんが一人一人必要な分だけ取っていくようになっている。なくなったらお世話役さんがそこに補充をするという形でうまく回っていている。お世話役さんとお客様という関係じゃなくて、みんながそれぞれ自分のことは自分でやっていくという関係がその避難所ではできている。普段からそういう地域だったからできているのだろうと私は思う。

- ◇ メガリージョンの話は、かなりスケール、レベルの違う話が重なっているが、両方とも考えないといけないのは確かである。先ほど、情報提供していただいた、検討委員会がどのレベルで何の話をしているのかを、きちんと教えてもらい、そこにどういう形で我々が関われるのかを次回以降、検討していかないといけない。
- ◇ ネットでこの地域指定の情報についてどんなことが書かれているのか見た。一つのニュースに、市長はこれを契機に容積率を上げて大きなビルを作りたいという話がある。本当にそれが私たちの住環境という意味においていいことなのだろうかということを、こちら側は言っておかないと、超高層のオフィスばかりが作られて、結局住みにくい街になると困る。
- ◇ 東北に行くときは必ず被災地がどういう状況かということを経験している。復興は途上で、空き地というか、かさ上げしてようやく土地ができて、そこから物が建っていくという状況である。一方で復興道路と称して高速道路は、建設されている。便利になるということはいいいことなのだが、バランスの悪いお金の使い方をしてるように思う。高速道路に何兆円というお金を使って、住宅はまだまだできていないって言うことでは、どっちが優先順位が高いのだろうかということは考えておかないといけない。
- ◇ メガリージョンは、誰にメリットがある話なのかということも、よくよく我々も考えないといけない。デメリットがくる可能性もあるので、こちら側から、住民サイドの声として届けることもこの会議の重要なことだと感じている。

○ その他・連絡事項

次回の部会は 11 月 8 日（木曜日）午後 7 時より開催